

2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 1 月 16 日作成)

| | | |
|------------------------------|--|--|
| 小委員会名 | 応答制御と減衰小委員会 | 主 査 名：新宮清志 就任年月：2006 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 構造委員会 (シェル・空間構造運営委員会) | 委員長名：和田 章 主 査 名：大森博司 |
| 設 置 期 間 | 2006 年 4 月 ~ 2010 年 3 月 | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | <p>シェル・空間構造物の減衰機構・減衰性能を明らかにし、さらに積極的に免震・制振等により応答制御を行い、構造物の地震・台風被害を低減することが重要と考えられる。そこで、本小委員会はシェル・空間構造物の応答制御および減衰の調査研究を行う事を目的としている。</p> <p>初年度： <ul style="list-style-type: none"> ・主として地震に対してのシェル・空間構造物の免震・制振・減衰に関する調査研究を行う。なお、減衰に関しては、比較的微少振幅の振動に対するものを対象とする。 ・書籍「シェル・空間構造物の応答制御と減衰」(仮題)の原稿執筆を開始する。 </p> <p>2 年度： <ul style="list-style-type: none"> ・出版物の刊行を行う。 ・シンポジウム、講習会、セミナー等のいずれかを実施する。 ・比較的大振幅の振動に関する減衰の調査研究を行う。 ・応答制御が施されたシェル・空間構造物の減衰に関する調査研究を行う。 </p> <p>3 年度： <ul style="list-style-type: none"> ・主として風に対してのシェル・空間構造物の制振・減衰に関する調査研究を行う。 ・比較的大振幅の振動に関する減衰の調査研究を行う。 ・応答制御が施されたシェル・空間構造物の減衰に関する調査研究を行う。 </p> <p>4 年度： <ul style="list-style-type: none"> ・大会 P D、シンポジウム、セミナー等のいずれかを実施する。 </p> | |
| 委員構成 (委員名(所属)) | <p>委員公募の有無：無</p> <p>主査 新宮清志(日本大学) 幹事 立道郁生(明星大学) 幹事 谷口与史也(大阪市立大学) 委員 青木義男(日本大学) 入江寿弘(日本大学) 大木洋司(東京工業大学) 瀧 諭(清水建設) 中澤祥二(豊橋技術科学大学) 西田明美(日本原子力研究開発機構) 福住忠裕(神戸大学) 松野浩一(東洋大学) 水谷太郎(大成建設) 山田耕司(豊田工業高等専門学校) 吉中 進(東京大学)</p> | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | <p>自然現象・形態の空間構造への応用調査 WG (主査：山田耕司) 新たな空間構造の創発を目指して、自然の形状・性能・構造的特徴を収集し、建築構造への適用を検討し、そのアイデアをまとめる。これは、条件緩和による新たな設計解の創発にとどまらず、あえて条件皆無による多様な発想の生成が期待される。</p> | |
| 2007 年度予算 | 80,000 円 | ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s18/ |

| 項 目 | 自己評価 |
|--------------------------------|--|
| 委員会開催数 | 4 回（年度内計画を含む） |
| 刊行物 （シンポジウム資料等は 除く） | 1．シェル・空間構造の減衰と応答制御（2008 年 3 月出版予定） |
| 講習会 | |
| 催し物 （シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等） | |
| 大会研究集会 | |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | |
| 目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係） | <p>1．出版物の刊行：多少遅れたが、年度内に刊行の予定である。</p> <p>2．セミナー等の実施：書籍刊行が遅れたので、それに伴いセミナー実施は次のように、年度を越すことになった。 第 7 回新「シェル・空間構造」セミナー：2008 年 6 月 27 日（金）に実施予定。</p> <p>3．その他の活動：書籍刊行・セミナーの企画にほぼ全力を尽くし、他の活動はあまり出来なかった。</p> <p>したがって、全体評価としては、90 点程度といえる。</p> |
| 委員会活動の問題点・課題 | 特になし |